

2025年7月18日

## 『みんなのスポーツ』7月号(No.515)から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の7月号は「**総合型クラブの安定的な収益(ビジネス化)と相互扶助**」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を3点記載します。



- (1)「行政マンの事務担日誌」が今月号で印象に残ります。スポーツ推進委員自らが楽しんで取り組める活動があることで、委員の意識が高まるのではないかと感じられている。横須賀も15年以上前から市から依頼され主管である行事以外に協議会が主体で市民の方に提供できるスポーツも並行して取り組んでいる。県内他都市のスポーツ推進委員は市からの依頼だけの行事の市町もあるように思います。  
今横須賀の事務局を見ていると市が主催のスポーツ関連行事が多いため？淡々とこなしていくのに手一杯で事務的であるように感じている。今回の方が言われているように、「事務局の方がスポーツ推進委員の懐に入ることが大切」は同感。15年以上前協議会が自主的な行事を検討・取り組む時の事務局は休日でも自主参加のメンバーとともにとことん議論に入ってこられる、自己啓発に熱心で勉強もされていました。ともに学び、ともに楽しみ、ともに成長していければ強く思います。
- (2)私の「みんなのスポーツ」応援団 福岡県大野城市高場さんの記事。スポーツ推進委員の1期目の任期を終えたばかりなのに、「みんなのスポーツ」の記事に登場。びっくり、すごい！！ 県の理事会で「みんなのスポーツ」の購読の話をする、大きな市でもみんなで回し読みをされているところがある、市町の会長でも購読していない方が散見される。高場さんが言われるように、コンパクトながら内容の詰まった本冊子のすばらしさに気づかれたことにびっくり。これからも頑張って欲しいと思います。
- (2) ペップトーク「名門校理論をぶち破れ！」今年2月川崎市での県研究大会で講演の岩崎良純氏。名門校と呼ばれる学校や、常勝軍団と呼ばれるチームにはあるのは「バイアス」が働いているからだといわれています。「バイアス」とはわかりやすく言えば、「思い込み」だそうです。思い込みがあると正しい判断ができなくなり、実際は力の差がないのに「相手の方が強い」という先入観を持ってしまとそのことが現実化してしまいます。  
中学校3年夏の野球大会で長年にわたり市の大会で優勝の常連校を破り、その後も勝ち続け地区大会・県大会に出たことがあります。その時「できるとみんなが思い」、当たり前のようにしみ込んでいた「思い込み」をぶち破り「強い思いの言語化」したことだったように思います。

今月号では3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことのできることから始めて(行動)みませんか？

\* **本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがある**ように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。**問題意識や感度を高めていく**と紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど20年近く購読していて思います。特にここ1、2年で**冊子内容が読者参加型の編集**になりました。活動はみんなでは是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上